

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2007年3月)

発表日2007年5月14日(月)

～大幅に増加し、経常黒字額は過去最高を更新～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭  
TEL : 03-5221-4525

		原数値				季調値				
		経常収支				経常収支				
		前年比	貿易・サービス収支		所得収支	前期比	貿易・サービス収支		所得収支	
			前年比	貿易収支	前年比		前期比	貿易収支	前期比	
06	1-3月期	18.5	▲ 13.5	▲ 28.2	42.0	▲ 4.9	▲ 10.5	▲ 9.4	4.1	
	4-6月期	▲ 3.0	▲ 24.5	▲ 17.4	15.8	▲ 7.2	▲ 15.6	▲ 4.2	▲ 2.2	
	7-9月期	11.4	6.0	▲ 0.1	17.6	4.6	5.3	1.0	3.6	
	10-12月期	6.4	13.6	12.1	6.3	19.9	56.2	38.0	1.5	
07	1-3月期	25.4	51.7	53.5	11.9	0.6	2.5	3.6	1.1	
06	3月	34.3	6.7	▲ 6.8	58.0	9.6	6.6	2.8	10.5	
	4月	▲ 17.7	▲ 59.4	▲ 32.8	12.7	▲ 23.5	▲ 49.5	▲ 27.2	▲ 9.9	
	5月	16.8	29.5	11.1	15.8	21.5	122.8	49.7	▲ 6.8	
	6月	▲ 6.4	▲ 13.3	▲ 12.2	23.7	▲ 3.0	▲ 29.5	▲ 20.1	15.0	
	7月	5.1	▲ 11.8	▲ 8.3	22.9	3.2	19.9	16.1	▲ 4.6	
	8月	21.1	361.8	36.2	11.2	▲ 1.0	4.5	2.1	▲ 3.9	
	9月	10.9	6.5	0.2	20.3	▲ 6.2	▲ 39.0	▲ 34.8	12.8	
	10月	6.3	▲ 34.1	▲ 18.5	37.0	21.8	83.3	55.1	0.5	
	11月	20.8	67.3	48.4	▲ 6.6	6.0	46.4	45.2	▲ 16.3	
	12月	▲ 4.7	14.3	15.1	▲ 9.5	▲ 2.4	▲ 23.5	▲ 21.4	19.6	
	07	1月	49.8	-	-	15.8	▲ 3.8	23.2	21.7	▲ 20.5
		2月	4.9	3.7	3.6	7.0	▲ 19.2	▲ 44.3	▲ 37.9	9.7
3月		36.9	61.7	62.1	13.2	63.3	98.4	70.9	37.7	

(出所)財務省、日本銀行「国際収支統計」

## ○3月の経常黒字額は前年比+36.9%

3月の経常黒字額は前年比+36.9%の3兆3,172億円(原数値)と3ヶ月連続で黒字幅が拡大した。内訳をみると、貿易収支、所得収支、サービス収支とも黒字額が拡大したため、経常黒字額は前年を上回った。

なお、2006年度の経常収支も同時に発表されたが、黒字額は21兆2,531億円、前年比+11.1%となった。輸出が堅調だったことから貿易黒字が拡大し、所得黒字額も債券利子の受取等が増加したため、全体としては5年連続で黒字幅が拡大した。

## ○貿易黒字額が大幅増、所得収支やサービス収支も黒字幅を拡大

貿易黒字額は前年比+62.1%と増加した。輸出は、前年比+9.6%(前月同+9.0%)と前月から小幅伸びが拡大した。商品別にみれば、自動車や半導体等電子部品が引き続き高い伸びとなっており、地域別にみれば、対米国の増勢がやや鈍化しているものの、対EU、対アジアは二桁増となった。輸出については、堅調な推移が続いていると言えよう。一方、輸入については、前年比+▲1.0%(前月同+10.3%)と前年を下回った。原油価格の下落(ドルベース:56.97ドル/バレル、前年比▲6.7%)により原油が前年比▲5.4%と減少したことに加え、衣類・同付属品の輸入が減少したためである。衣類・同付属品の減少は一時的と考えられるが、原油については前年に価格が高騰した影響により前年対比ではしばらく下押し要因となる可

能性が高い。

サービス収支は、「輸送」の赤字幅が拡大したものの、「旅行」の赤字幅が縮小し、「その他サービス」の黒字幅が拡大したことから全体として黒字幅が拡大した。「旅行」については、訪日外国人数が引き続き前年を上回って推移していることから赤字幅が縮小した。また、「その他サービス」の黒字幅拡大は「特許使用料」の増加が大きく寄与した。もともと3月は「特許使用料」の支払、受取が多い月であり、現地生産の拡大によって自動車メーカー等での受取が増加したとみられる。

所得黒字額は前年比+13.2%と3ヶ月連続で黒字幅が拡大した。対外資産の累増を背景に外国債券の受取利子が増加するなど「証券投資収益」がプラスに寄与したほか、「その他収益」も大幅に増加したため所得黒字額は前年を上回った。

### ○経常黒字額は先行きも増加基調で推移

先行きについて展望すると、所得収支は黒字額の拡大傾向が続くとみられる。日本の金融政策をみれば、ゆっくりとしたペースで利上げが行われているものの諸外国との内外金利差はなお大きく、外国証券投資への選好が大きく減退する可能性は低い。対外資産の増加傾向が続く見込みであり、急速に為替が円高に振れることがなければ所得黒字額は緩やかながらも増加基調で推移すると考えられる。また、原油価格の落ち着きにより輸入の伸びが前年対比で鈍化傾向にあること、米国経済のソフトランディングにより輸出は底堅く推移する見込みであること等から、貿易黒字額も増加トレンドを辿る見込みである。貿易収支、所得収支ともに黒字幅が増加していくと見込まれることから、経常黒字額は先行きも増加基調で推移すると考えられる。

